

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25580074

研究課題名(和文)「役割語」の翻訳をめぐる日中言語文化の位相

研究課題名(英文)Phase of language culture between Japan and China over the translation of

研究代表者

長井 裕子(NAGAI, Yuko)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：50135604

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は中華圏(中国、台湾)における日本マンガの翻訳における諸問題を論じたものである。日本のマンガやアニメは、世界各国の若い世代から絶大な支持を集め、中華圏(中国、台湾)においても大量の日本のマンガ作品が翻訳出版されている。しかし、マンガの翻訳には日本語の特有の言語表現に起因するさまざまな問題がある。たとえば、「役割語」や擬音語・擬態語の翻訳である。本研究はマンガの翻訳における諸問題を検討するために、中国語訳『深夜食堂』などを資料として、翻訳の実態について調査、分析を試みた。

研究成果の概要(英文)：This paper will be based on a research of problems during the course when Japanese Mangle being translated into Chinese in area of Greater China (the Mainland and Taiwan). Since Animation and Manga from Japan has quite gained in popularity among the young generation all over the world, it is also translated and published in large quantities in Greater China (Mainland and Taiwan). However, problems of Manage Translation originated by special expressions in Japanese, do exist, of which the translation of the Japanese Role-words and Onomatopoeia will be a good example. And in this research, it will take the Chinese-translated edition Mange "Midnight Diner" (Shinya Shokudo in Japanese) as a material of analysis, in order to well-consider the conditions and problems of Japanese Mangle translation.

研究分野：中国文化

キーワード：マンガ 中国語訳 役割語 擬態語

1. 研究開始当初の背景

日本のサブカルチャー、とりわけマンガやアニメは、日本発の新しい文化として世界各国の若い世代から絶大な支持を集め、もはや単なるエンターテインメントにとどまらず、日本の社会や文化を知る窓口として極めて重要な役割を担っているといえるだろう。中華圏（中国、台湾）においても大量の日本のマンガ作品が翻訳出版されている。マンガの翻訳における諸問題はすでに先行研究でも言及されているが、日本語の特有の言語表現に起因するものがあげられよう。「役割語」もそういった言語表現のひとつといえる。「役割語」とは何か。「ある特定の言葉遣い」を聞くと「ある特定の人物像」を思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」という（金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店 2003）。男女、年齢、教育程度、社会層、職業など様々な位相で人物の「らしさ」を鮮明に表現する「役割語」は、「ステレオタイプの言語的側面」ともいうことができ、マンガなどサブカルチャーの世界でとりわけ有効に用いられている。しかし、日本マンガの中国語訳では「役割語」は不訳にされることが多い。なぜ中国語訳では「役割語」は切り捨てられたのか。中国語に「役割語」に相当する言語表現はないのか。また、「役割語」を中国語訳するとしたらどのような方法があるのか。本研究では、このような問題意識をもって、中華圏における日本のサブカルチャー、とくにマンガにおける「役割語」の翻訳に注目してその実態を分析し、さらに中国文化における「役割語」機能を持った表現について文学テクストを中心に探り、「役割語」をどのように翻訳していくべきか、その方法論を検討し、それによって、トランスナショナルな文化伝達におけるさまざまな問題の解決の糸口を探ろうというものである。

2. 研究の目的

「役割語」の概念は金水敏（2003）によって提出され、その後、『役割語研究の地平』（金水敏編、くろしお出版 2007）『役割語研究の展開』（金水敏編、くろしお出版 2011）などによって、議論は深められてきた。「役割語」をめぐる研究の可能性は鄭惠先「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」（金水編 2007）に示されているが、「翻訳と役割語」という比較文化研究の方向性は、トランスナショナルな文化伝達における諸問題の研究を進めるといふ観点から重要であり、本研究もここに位置づけられるものである。

金水（2003）によると、「日本語の役割語」として特に重要な指標は、**人称代名詞**またはそれに代わる表現、および**文末表現**（太字は原文のまま）であるという。たとえば日本語において一人称は、「わたし、あたし、

ぼく、おれ、おいら、あつし、わし、拙者」など多彩であり、それらは話し手の性別、年齢、時代性などさまざまなイメージを喚起する機能を持つ。「役割語」にかかわる文末表現は活用、助動詞、終助詞、丁寧表現など、じつに豊富である。一方、「役割語」の形成過程を歴史的に遡れば、江戸の戯作文学など広汎な庶民文化に端を発し、その伝統が講談本や少年向け雑誌に継承されて普遍化され、やがてマンガ文化のなかで広く定着したことがわかる。つまり、「役割語」とは、日本語の文法構造や語彙の特質を、江戸から現代に至る大衆文化が巧みにとらえて作り出したものであり、日本のサブカルチャーの代表的言語表現といえることができる。

このようにきわめて日本固有の色彩を帯びた「役割語」を、異なった文化的背景をもつ他言語に翻訳しようとするとき、一般的な言葉の置き換えのみでは意を伝えきれない。そのため、あえて原文の一部を残したりする「異化的翻訳法」や、なじみのある事物・名称に置き換える「同化的翻訳法」などの手法も考えられるが、いずれも限界がある。その解決策として示唆的なのは細川裕之が「コミック翻訳を通じた役割語の創造」（金水編 2011）で提示する「言語創造的翻訳」である。それは「起点言語における概念・思考方法・イメージ・対象事物などが目標言語に存在しない場合、新しい言語記号を造り訳語にあてる」ということである。

「役割語」は日本のサブカルチャーの言語表現にとってひとつの歴史的結実であり、生き生きとしたマンガ表現に不可欠なものである。ゆえに「役割語」を切り捨てた翻訳は原作の味わいを大きく損ねてしまいかねない。本研究が「役割語」を中国語訳するための方法論を提示することができれば、オリジナルの持ち味に近い翻訳作品を実現することができる。また、マンガ以外の文学テクストにも適用可能であり、巨視的に見れば、トランスナショナルな文化伝達における諸問題の解決の一助となり、日本の文化発信に寄与することができる。

本研究は上述のさまざまな先行研究を踏まえて、日本マンガの「役割語」を中国語に適切に移し替えていく翻訳方略を提示するための基礎的研究として、日本マンガの中国語訳の実態を「役割語」とそれに関連する諸事項に注目して分析、考察を行うことを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は「役割語」や擬音語・擬態語をどのように翻訳すべきか、その方法論を探るための基礎研究として、日本のマンガ作品の翻訳について、原文と比較する実態調査を行った。

役割語の翻訳実態調査については、主として『深夜食堂』（安倍夜郎作、小学館、2007-）

を資料として用いた。『深夜食堂』は現在 17 巻まで出版されているが、本調査では 10 巻 (2013) までを対象とした。本作品は新宿の一飯屋を舞台とし、マスターとそこに集う老若男女さまざまな客たちの出会いや別れ、苦悩や喜びといった人間模様を描いたものである。台湾、韓国、中国などアジア諸国では翻訳出版はもちろん、同名の TV ドラマも放映されている。ドラマについては 2017 年には中国リメイクバージョンが企画されるほど、人気は高い。中国語訳としては台湾版 (丁世佳訳、新教典文化出版) と大陸版 (陳穎訳、湖南文芸出版社) がある。大陸版は欠本があるため、主として台湾版を用い、適宜大陸版を参照することとした。

調査の手順は、まず「役割語」の項目を設定し、日本語原文との比較分析を行うこととした。「役割語」の項目は、金水敏「現代日本語の役割語と発話キャラ」(金水編 2011) を参考に、発話者の年齢、ジェンダー、地域差、職種や社会層に応じて設定した。

以上の翻訳実態調査とともに、「役割語」の翻訳方略を考察するうえで参考となる言語表現についても調査検討していく方針を立てた。そこで擬音語・擬態語に注目した。その理由として、「役割語」同様、日本語に特徴的な言語表現であるとともに、マンガにおいて重要な位置づけにあることがあげられる。マンガにおける擬音語・擬態語は、字体表現において絵と一体感のある描き文字を使用することが多く、単なる文字情報にとどまらず、人物の内面の動きや場面の臨場感を表現する「漫画の効果音」(日向茂男「マンガの擬音語・擬態語 (1)」『日本語学』7 月号 Vol.1.5 明治書院 1986) として重要な役割を担っている。「中国人を対象とした日本語コミックにおけるオノマトペの理解に関する調査」(陳焯ほか、人工知能学会全国大会論文集 27、1-4、2013) によれば、日本に滞在しながら日本語を学ぶ中国人留学生がオノマトペの重要性を理解しているだけでなく、日本語の学習経験が無い中国人読者もオノマトペの存在を重視しているという結果が得られた。日本語を理解しない読者たちは「オノマトペを絵の一部としてとらえ、何気なく楽しんでいる」という。

また、擬音語・擬態語には「役割語」に通じる側面があることも、これに注目した理由のひとつである。とくにある種の擬態語は発話キャラクターを選ばないが、ある特定の心理や状況を表す役割を担っている。たとえば、「ガーン」という音はショックを受けた心理状態を表現し、「シーン」という文字表現は静けさという状況を表したりするという決まりになっている。つまり、ある種の擬態語は人物の心理や場面の状況についてのステレオタイプの言語表現と考えることができよう。

擬音語・擬態語の翻訳調査については、たかぎなおこ作『はじめてだったころ』(廣済

堂、2005) を資料とした。翻訳テキストは常純敏訳『一個人的第一次』(台湾・大田出版、2006) を使用した。たかぎなおこは平凡な日常をほのぼのとしたタッチで描き、台湾では若い女性を中心に非常に人気があり、同書も発売三年で 25 刷に達している (奥付による)。擬音語・擬態語は日本語に豊富で中国語には少ないといわれている。そのためか、翻訳の際に絵の一部として扱って不訳にしたり、訳さずに注釈を入れたりする例がみられる。しかし、『一個人的第一次』では、ほぼ毎ページにあらわれる擬音語・擬態語を省略することなくすべて翻訳しており、豊富な訳例を提供してくれている。

4. 研究成果

(1) 『深夜食堂』の翻訳について

① 「役割語」の訳例

日本版『深夜食堂』(安倍夜郎作、小学館) と台湾版『深夜食堂』(丁世佳訳、新教典文化出版) から発話キャラクター別に項目をたてて訳例を抽出した。以下に言語的特徴が著しい発話キャラクターについて、調査結果の一部を示す。(カッコ内は訳、[] のローマ数字は巻、算用数字はページ)

(ア) 方言話者

- a. かけてくん なっちいいよろうが (我不是說不要打電話來嗎?) [I 114]
 - b. たいしたことないっちゃろう… (沒什麼要緊吧…) [I 114]
 - c. 仕事忙しいけん (工作很忙。) [I 114]
 - d. ケン坊、肉屋継いでんだっぺ? (健仔、要繼承肉店嗎?) [IV122]
 - e. 東京にいたって、いいことなんかねえっぺよ。(待在東京就沒好事啊!) [IV125]
 - f. なんだべ、それ! (那是甚麼啊?) [VI58]
 - g. それ、ただだが? (不用錢的嗎?) [VI58]
 - h. ヒコーキさ乗れば、スープ飲めるんだが!?(坐飛機就有湯喝!?) [VI58]
 - i. うめえな。一んだな。(好吃。一就是啊!) [VI71]
 - j. かめへん、かめへん。(沒關係，沒關係。) [VII99]
 - k. まあまあやな。(馬馬虎虎。) [VII100]
 - l. せやな。(沒錯。) [VII100]
 - m. あんたら知らへんの? (你麼不知道?) [VII 101]
 - n. ほんなら私が頼むな。(那就我點吧。) [101]
 - o. ええんです。(沒關係的。) [VII135]
 - p. おふくろの白菜漬けがうまぐでね。(老媽的醃白菜可好吃了。) [IX29]
 - q. そーか、良がっだな。(太好了。) [IX36]
- (イ) ホモセクシュアル話者 (女性語)
- a. あたしいろいろ調べて、お葬式にも行ったのよ。(我調查一下，連葬禮都參加了。) [VII 10]
 - b. やっぱりコウちゃんだったわ。(果然是阿幸。) [VII10]

c. もう永遠に来てくれないのね。(現在他永遠不回来了。)[VII11]

(ウ) 男性語

a. 肉じゃがってやつは男心をくすぐるぜ。(馬鈴薯燉肉果然能抓住男人的心啊…)[II 100]

b. オイラは仏教徒だから、そんなの関係ねえだ。(本人信佛, 跟這節日毫無關係。)[II 126]

c. 彼女、なんならオイラが付き合ってやってもいいぜ。(小姐, 俺可以跟妳交往喔。)[VI 27]

d. マスター、勘定御置いとくぜ。(老闆, 我把錢放在這裡。)[VI27]

(エ) 若者ことば

a. なに、あのオヤジ…(搞屁啊, 那老頭…)[I 68]

b. 超ムカつく。(讓人超火大。)[I 68]

c. …でもうれしかった。今日オタクと会えて。(…我今天好高興啊。認識了御宅。)[V10]

d. あの、オタクってダメですか?—いいえ、全然。(宅男不行嗎? — 不會啊!)[X79]

e. 私春代で一す。ヨロピク♡(我叫春代。請多關照。)[V100]

f. 思ったより、ぜんぜんうまいっす。(比我想像中好吃多了。)[X124]

(オ) 幼児語

a. おとーたん。おかあちゃん怒ってるよ。(老爸。老媽生氣了啦。)[X15]

b. おいちい。(好吃。)[X92]

(カ) 老人語

a. しょうゆじゃろ。(醬油啦。)[I 42]

b. ほら、おまえの好きな肉じゃがじゃ。たーんと食べ。(來, 你喜歡的馬鈴薯燉肉, 多吃點。)[II96]

(キ) ヤクザことば

a. なんだ、できねえのか、(做不出來啊。)[I 8]

b. ザケンナヨ!(搞屁啊!)[I9]

c. な、なんだ、テメーら……(你, 你們幹嘛…)[III62]

d. アニキ、白滝っす。(大哥, 蒟蒻絲。)[X 31]

(ク) 外国人のカタコト日本語

a. コレガナポリタン!?(這就是拿波里義大利麵!?) [I 102]

b. イタダキマス。(我開動了。)[V79]

c. 日本人テカレー好きデスネ!(日本人真的喜歡吃咖喱啊!)[V81]

②分析

(ア) の方言話者については、a-c の発話者は九州から東京へ出てきた青年で、いなかの姉と地元のことばで電話するシーンである。d、e は茨城弁、f-h は場所不詳であるが田舎の小学生の発話である。i は山形、j から n はいわゆる関西のおばちゃんが発話者で、にぎやかで軽妙なキャラを演出する。l は関西でも京都の名家のお嬢様の発話、p、q は東北出身のタクシー運転手が発話者である。『深夜食堂』には多くの地域の方言話者が現

れるが、翻訳は方言のニュアンスを表現することに注意が払われていないようだ。後述するたかぎなおこ『はじめてだったころ』もじつは全篇作者の出身地三重の方言で書かれているが、翻訳からはその地域性をうかがうことはできない。

(イ) は年配のゲイが発話者であるが、オネエことばのもつ独特のニュアンスは訳出されていない。(ウ) では語尾の「…ぜ」が脱訳になり、「オイラ」は“俺”となっているが、誤訳と思われる。若者や子ども、老人など年齢差による言葉づかいの特徴も役には表れていない。ノン・ネイティブのたどたどしい日本語は原文では(ク)のようにカタカナであらわされているが、中国語訳では、特別な表現は見られない。

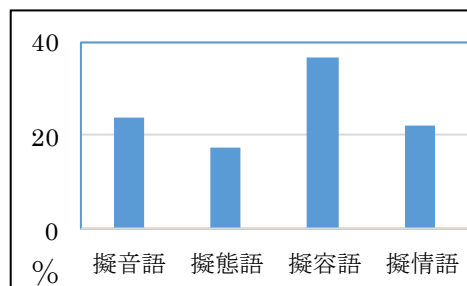
以上、引用は一例であるが、ここから見えてくるのは明確な役割語翻訳方略は未だ創出されていないのではないかということだ。絵があって、ストーリーの流れがあるので、全体の内容理解については問題ないだろう。しかし、訳されたセリフからだけでは話し手の性別、年齢、時代性などさまざまなイメージを喚起するのは難しい。

(2) 擬音語・擬態語翻訳について

①『はじめてだったころ』の訳例

日本版『はじめてだったころ』(たかぎなおこ、小学館)から、擬音語・擬態語を抽出し、台湾版『一個人的第一次』(常純敏訳、大田出版、2006)の訳と比較検討した。『はじめてだったころ』に出現する擬音語・擬態語は全部で247、擬音語は59、擬態語は188である。ここでは、擬音語をひとまとめにし、擬態語は金田一春彦「擬音語・擬態語概説」(浅野千鶴子編『擬音語擬態語辞典』角川書店 1978)を参考に、次のように下位分類した。

- ・擬態語：無生物の状態を表すもの
 - ・擬容語：生物の状態(動作容態)を表すもの
 - ・擬情語：人間の心理感情を表すもの
- それぞれの出現数は擬態語43、擬容語91、擬情語54であった。グラフは出現率である。



以下に訳例の一部を示す。(カッコ内はページ数)

(ア) 擬態語(下位分類)

ぐるぐる 轉來轉去 (52) (53)

こつぜん 忽然消失 (76)
 し～ん 静悄悄 (30)
 ジャーン 鏘～～ (60) / 鏘鏘鏘 (114)
 ジャンジャン 鏘鏘 (25) (27)
 ズラ～ 滿桌好料 (36)
 ズラ～ 堆積如山 (55)
 ずら～ 佳餚滿桌 (129)
 ば～ん 鏘鏘鏘 (35)
 ば～ん 鏘鏘～ (107)
 ぴかっ 閃亮 (114)
 ピカピカ 亮晶晶 (102)
 ぷ～ん 香氣四溢 (10) (15)
 香噴噴 (13)

(イ) 擬容語

ガヤガヤ 嘩嘩嘩 (14) (113)
 キョロキョロ 東張西望 (42) (46) (79) (128)

ぐびぐび 咕嚕咕嚕 (127) (130)
 くんくん 吸吸 (11) (15)
 こそ～ 鬼鬼祟祟 (41) (63)
 こそこそ 悄聲悄聲 (89)
 ぞろぞろ 稍稍爬近 (24)
 ぞろぞろぞろ 慢慢慢慢 (127)
 だだだっ 衝衝衝 (41) (43)
 チラッ 偷瞄 (100) (105)
 どっぴゅーん 跑百米 (87)
 ドドドッ 咚咚咚 (115)
 トボトボ 咚咚 (30)
 のろのろ 緩慢緩慢 (102) (104)
 ぱく…ぱく… 大口咬大口咬 (18)
 ひそひそ 小聲小聲 (123)
 びゅーん 衝呀 (68)
 ピョンピョン 跳跳 (22)
 ビリビリ 頭昏眼花 (32)
 ブツブツ 啗啗啗啗 (30) (90)
 ふらっ 搖晃 (56) (130)
 ふらふら 搖晃搖晃 (120) (131)
 ブルブル 抖抖 (74) (89) (92)
 ぶんぶん 擺動擺動 (82)
 へなへな 虛脫虛脫 (104)
 ぼ～ 呆～ (32)
 ぼけ～ 茫然 (78)
 もぐもぐ 嚼嚼 (54) (88) (92)
 よろ～ 搖晃 (17) (79)

(ウ) 擬情語

あせあせ 驚慌驚慌 (105)
 うじうじ 畏畏縮縮 (67)
 オロオロ 嗚咽嗚咽 (35)
 ガ～ン 震驚 (V) (99)
 かあ～ 面紅耳赤 (44)
 かあ～ 臉紅 (45) / 害羞 (40)
 ガーン 嚇～ (132)
 ガクガク 抖抖 (114)
 ぎくっ 嚇 (83) (92)
 ぎょえええーっ 蝦～米～ (103)
 ぐすん 啜泣 (79) (95)
 しょんぼり 失落 (83)
 ず～ん 失落 (82)
 ずど～ん 虛～脫～ (132)
 ちんぷんかんぷん 一頭霧水 (128)

ドキッ 嚇 (87)
 ドキドキ 緊張緊張 (15) (41) (53) (102) (127) (128)
 ドキドキ 心驚膽顫 (34)
 ドキドキ 抖抖 (43)
 ドキドキ 小心翼翼 (104)
 ドキドキ 砰砰 (109)
 ドキドキ 怦怦 怦怦 (66) (67)
 バクバク 怦怦 怦怦 (70)
 はっ 咦 (15)
 ハラハラ 不安不安 (54)
 びくっ 嚇 (55)
 プリプリ 火火 (56)
 ブルブル 顫抖顫抖 (69)
 ホ… 安心… (55)

②分析

元来中国語に擬態語は少ないため、対応する訳語を探すことは難しい。さらに擬態語は単純に物音を映しているのではなく、その音を象徴化して状況や心理を描写しているのだから、単なる当て字による音訳では意味をなさない。そのため、上記の訳例からは、動詞(重ね型、動詞句)、形容詞、四字成語、慣用的言い回しなど、品詞の壁を乗り越えた大胆な方法を用いて、擬態語を翻訳しようと努めていることがわかる。

また、同じ日本語でもことなつた情景、心理を描写している場合があることから、その意を汲んだ訳がなされている。たとえば、「ズラ～」の訳でもたくさんのごちそうが並んでいる様子は“滿桌好料”、“佳餚滿桌”で、ものが積み重なっている様子は“堆積如山”となっている。同様のことは「ドキドキ」についても見られる。「ドキドキ」を機械的に心臓の鼓動からくる“怦怦”をあてるのではなく、不安や期待、動揺、プレッシャー、驚きなど、その背景に応じて、“緊張緊張”“心驚膽顫”“抖抖”“小心翼翼”などさまざまな訳語を当てている。

なかでも、注目すべきは“鏘”の用法である。“鏘(あるいはその重ね型“鏘鏘”)は次の二つの用法が見られる。

- ・音がにぎやかになっている様子
- ・新しい、注目すべき人やものが登場する場面で用いられて、注意を喚起し、その場を盛り上げる効果をもつ(実際の音はない)

“鏘”は中国語の擬音語(象声詞)として古代から用いられ、金属・石などが澄んだ音を立てて鳴るさま、勢いの盛んなさま、あるいは鳳凰の鳴くさまを表す。この語は日本に伝わり、漢語的な擬音語として日本語表現に定着し、“鏘鏘”、“鏘然”として文学作品中に用例を見ることが出来る。現代中国でも“鏘鏘”は下記の例のように金属楽器が打ち鳴らされる音の表現として用いられているが、後者のような用例はなかった。

【例】獅子隊每人耳朵上别了一支烟，就摆开阵势，鼓儿咚咚，锣儿鏘鏘…(賈平凹「臘月

正月」)

賈平凹の例にみられるように“鏘”はドラの擬音である。伝統演劇などにおいてドラのにぎやかな音は、場面の転換の合図ないしは観客の注意を引きつける音響としても使われている。発音も“qiāng”と「ジャン」に近い。こういったことから、本来擬音語の“鏘”は擬態語「ジャーン」の訳語として用いられることになったのではないだろうか。

③中華圏オリジナルマンガ作品への影響

『オノマトピア・擬音・擬態語の楽園』序(寛壽雄・田守育啓編著、勁草書房、1993)によれば、中国語の場合擬音語から擬態語への「転移の問題はほとんど起こらない」との指摘がある。しかし、“鏘”は日本マンガの言語表現の影響を受け、本来の擬音語から擬態語へ意味が拡張していった例といえる。中華圏オリジナルのマンガ作品をみると、擬態語“鏘”は随所にみられ、すでに定着しているようだ。また、日本のマンガからの言語表現の影響としては、擬音語・擬態語は日本マンガ同様ほぼ描き文字であること、長音記号「ー」「～」や踊り字「々」が多用されていることなども指摘できる。さらに擬音語・擬態語を表意文字である漢字を使わずに注音字母を用いて、音要素だけを表現しようとする作品もあらわれている。

(3)まとめと今後の課題

本研究は「役割語」という日本語の特性に根ざしたマンガ特有の表現を適切に翻訳する方略を探るために、「役割語」の翻訳の実態、またこれに関連して擬態語の翻訳の実態について調査を試みた。今回の調査資料は限定的ではあるが、次のような結論を得た。

「役割語」の翻訳は、一部の語彙を除いて、発話キャラクターの特性を表現するような工夫は見ることができなかった。しかし、擬態語の翻訳においては、四字成語などを転用し、原文の持ち味を生かした訳を創出しようとする工夫を見ることができた。さらに、日本マンガ特有の擬音語・擬態語の表現法は中華圏オリジナルのマンガにも影響を与えており、一部の言語の意味拡張をも促していることもわかった。

今後はさらに広く資料に当たって役割語翻訳の実態調査を続け、「役割語」翻訳の可能性について検討するとともに、マンガを通して、日中の言語文化における影響関係も考察していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

長井 裕子 (NAGAI, Yuko)

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：50135604